

12月3日

## アジアの殉教者と フランシスコ・ザビエル

(1506.4.7～1552.12.3)

～日本最初の宣教師～



「フランシスコ・ザビエルの死」

フランシスコ・デ・ゴヤ

1746～1828

日本聖公会ではこの日を「アジアの殉教者とフランシスコ・ザビエル」の記念の日として覚える。特に12月3日はザビエルが亡くなった日でもあるので、ここではザビエルについて取り上げたい。

フランシスコ・ザビエル(Francisco de Xavier)はナヴァラ州のハビエル城に、バスク人の城主の子どもとして生まれる。しかし彼の父が戦いに敗れたことをきっかけに、その家は落ちぶれ、ザビエルは家を建て直すためには学問しかないと決意をする。そしてパリ大学に行き、学んでいくのだが、そのときに出会ったのがイグナティウス・デ・ロヨラだった。ザビエルはロヨラから感化を受けながら、また生涯をキリストにささげるようにとロヨラに誘われるのだった。

1534年、ザビエルは四年もの間自分を誘ってくれたロヨラと他の学生五人の合計七人で、清貧と貞潔、そして従順を誓い、宣教に献身することを決める。これが後のイエズス会となるわけだが、ロヨラが彼に言った言葉「全世界を儲けても、自分の魂を失ったなら、何の益があるか」がザビエルの心をとらえたという。

1537年に司祭に叙階されイタリアで活動した後、インドへ渡った彼はゴアやトラヴァンコーアで数万人に洗礼を授けたと言われる。

1547年、マラッカにいたザビエルのもとにヤジロウという一人の日本人が現れる。ザビエルは彼から日本の話を聞き、洗礼を授けた後、彼と二人のイエズス会員と共に日本へと向かう。

1549年8月15日、彼らはずいに日本に上陸した。ザビエルは日本人を、今まで出会った人々の中でもっとも優れていると評価し、鹿児島、平戸、山口で宣教し、数百人に洗礼を授ける。また京都に行き、天皇に会おうとするがこれはかなわなかった。その後、山口、豊後で宣教した後インドに戻り、中国へと行こうとするも大陸までは行きつかず、広東に近い上川島で熱病にかかり、その生涯を終える。

ザビエルの遺体はインドのゴアに保管され、いまなお腐らずに置かれている。またその片方の腕は日本にも来たことがある。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは証びとを召して国々、ことにアジアに遣わし、その生涯によって栄光を現されました。どうか殉教者たちとの交わりが強められ、わたしたちもその模範に倣い、感謝して忠実にみ国のために働くことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン